

大供本町遺跡

発掘調査現地説明会 資料

岡山市教育委員会

日時：2008年3月15日（土）13：30～

場所：岡山市大供本町地内

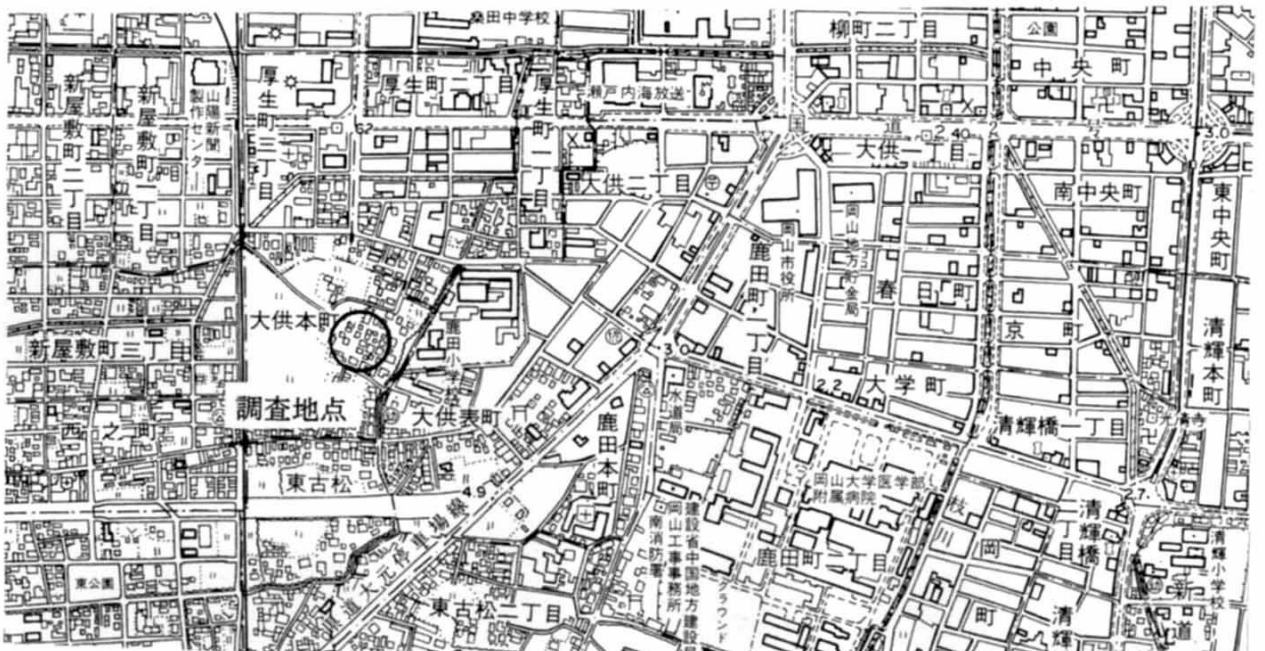
はじめに

岡山市教育委員会では大供周辺区画整理事業に伴い、昨年11月から市道部分の発掘調査を行ってきましたが、調査の終了が近づきましたのでこれまでに見つかった遺構や遺物を公開するため、現地説明会を開くこととなりました。

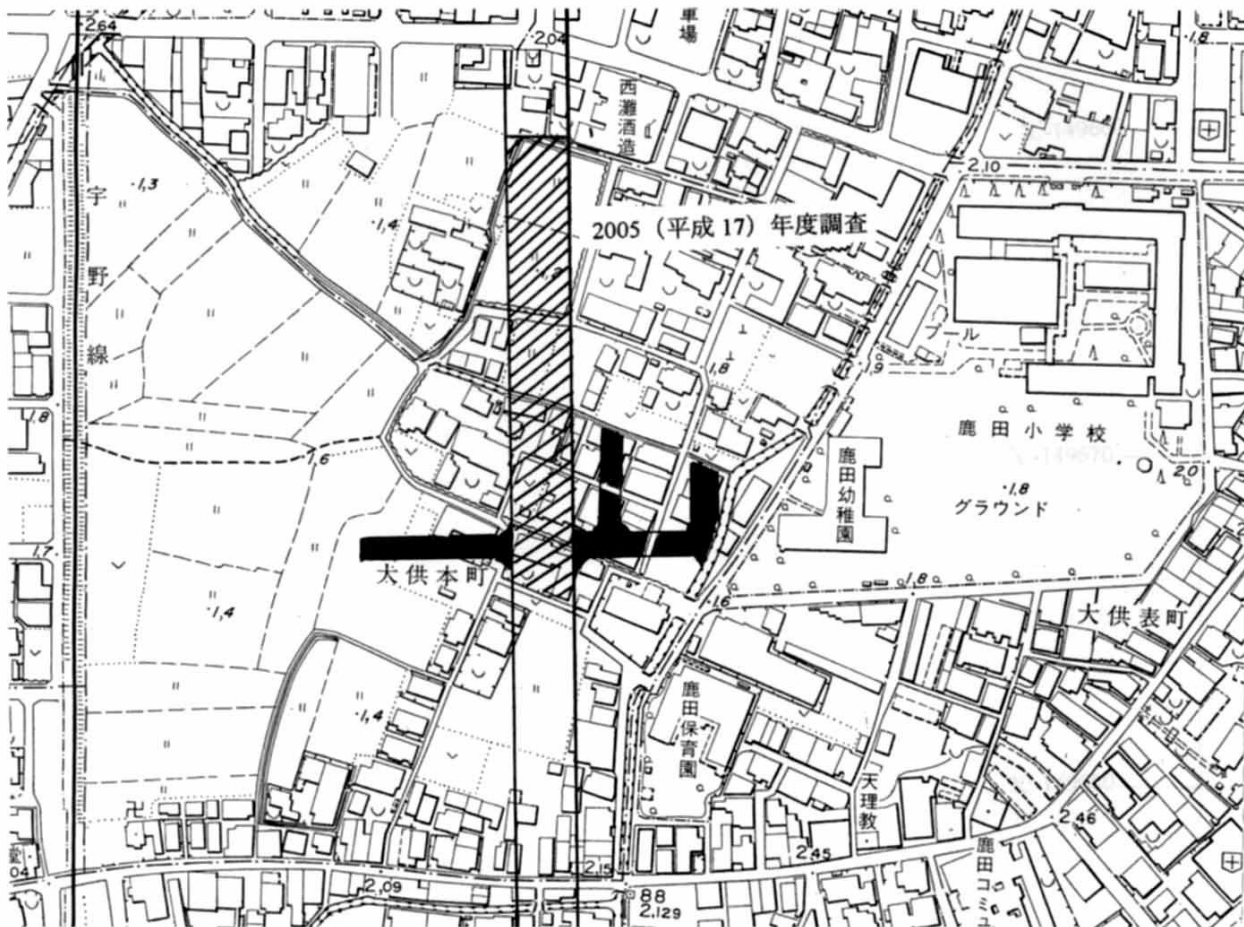
調査の成果

今回の調査は前回の平成17年度に調査した地点に隣接しており、「でんかのわたりりょう殿下渡領しかたのしょう」である鹿田荘の栄えた平安時代から中世頃を中心として江戸時代までの集落の建物跡や溝、井戸などが見つかるものと期待されました。

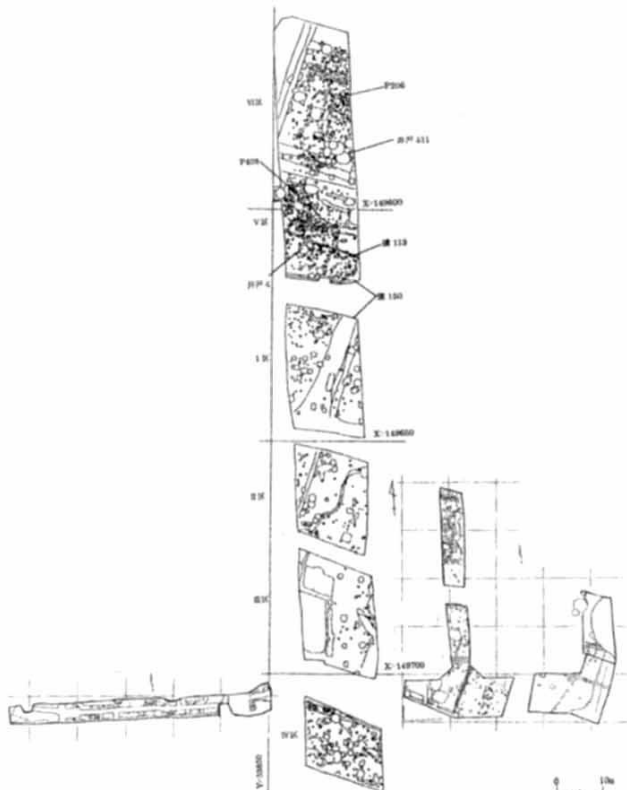
調査の結果、今回の調査地点では鹿田荘が成立する以前の奈良時代の井戸をはじめ、平安時代の溝や建物跡、鎌倉時代の井戸や建物跡などが見つかりました。なかでも奈良時代の井戸は木製の井戸枠を持っており、須恵器すえきの壺つぼや土師器はじきの甕かめのほか墨書土器ぼくしょどきなどが見つかりました。また、大溝からは大量の土師質土器はじしつどきとともに緑釉陶器りょくゆうとうきや輸入陶磁器ゆにゅうとうじき、獣骨じゅうこつなどが見つかりました。



遺跡位置図



調査区配置図



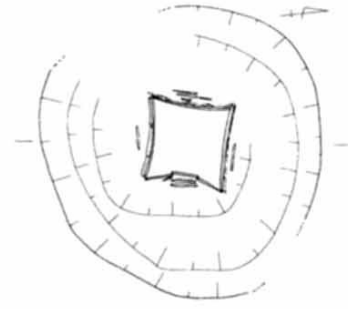
調査区配置図

江戸時代の井戸

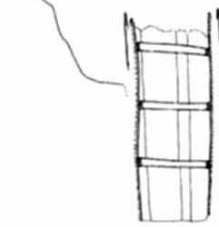
溝

4区

溝

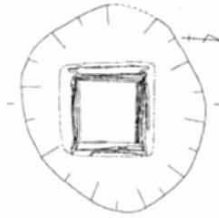


1.2m

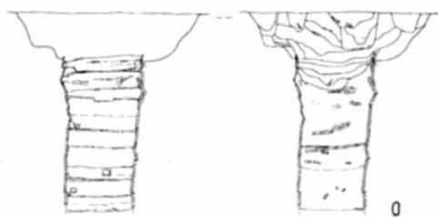


0 1m

中世の井戸



1.0m



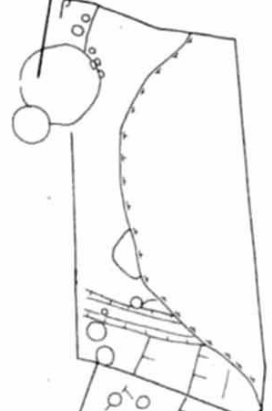
0 1m

奈良時代の井戸

3区

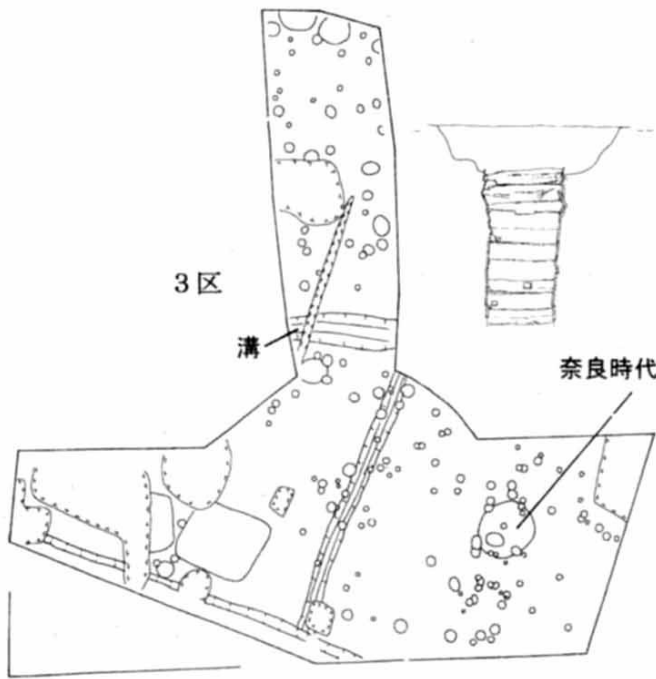
溝

2区



大溝

5区



0 10m

東調査区 (2~5区)

奈良時代の井戸

この井戸は一辺約 70cm、深さ 2.2m の木枠を持ち、この木枠は 20cm ほどの板を横方向に組み合わせて作られていました。井戸底からは須恵器の壺や土師器の甕などのほか、墨書土器などが出土しました。

中世の井戸

一辺約 1 m、深さ約 2.6 m の木枠を持つ井戸です。井戸の底付近からは土師質の小皿や中国製の白磁の破片などが見つかりました。

大溝

大溝は平安時代から江戸時代にいたる時期のものであることがわかりましたが、現在も調査区のすぐ横を流れる相模川の前身と考えられます。この溝の中からは大量の土器とともに獣骨や貝層なども見つかっています。微高地の真中を流れるこの大溝は人為的に開削された可能性があるかもしれません。



奈良時代の井戸から出土した土器



墨書土器「本」



至和元宝